

実践記録

学校/学年	小学校 / 6年	
教科等：単元名	学活：メールの良さと悪さを考えよう	
キーワード	メールによる悪口	
情報モラル指導 モデルカリキュ ラム表における 目標	分類	情報社会の倫理 法の理解と遵守 安全への知恵 情報セキュリティ 公共的なネットワーク社会の構築
	大目標項目数字 大目標項目内容	C 情報社会でのルール・マナーを遵守できる
	中目標項目番号 中目標項目内容	C2-1 情報の発信や情報をやりとりする場合のルール・マナーを知り、守る
授業会場	パソコン教室 普通教室 特別教室〔 〕 その他〔 〕	
学習の目標	メールの良さと悪さを考え、これからの選択に活かす	
使用教材	教材名	NET モラル 児童用
	製作者	広島県教科用図書販売株式会社
	入手先(URL等)	長野市情報モラルポータルサイト「事例で学ぶNetモラル」

展開案

	学習活動	指導 評価
導入	・メールをどんなときに使用するか考える。	普段の生活でメールを利用しない児童にはメールがどんなものが簡単に説明する。
展開	・メールの利便性を理解する ・メールによる悪口の広まりについて原因を考える。	親子間など連絡先が明らかな場合、メールによる情報伝達の利便性を理解させる。 顔の見えない相手にメールを送る場合、情報の一部だけが伝わり、思いがけないトラブルに発展することを理解させる。
おわり	・メールの良さと悪さを考える。	メールによる情報の伝わり方は、使い方によって良さと悪さが有ることに築くことができたか。

授業の成果

- ・具体的な事例を通して、体験的に学習を行うことができた。

指導のポイント・留意点

- ・コンピュータの一斉管理による授業で、考える観点を統一させた。